



会長メッセージ

No. 20

年末も押し迫りました。この一年、県連にとって一番大きな出来事は、第61回全日本弓道遠的選手権大会の主管をつとめたことでしょう。

1300年前に、この地に平城京が造られ、日本の律令国家としての基礎が出来ました。当時宮廷の年中行事として全ての官人が参加した「射礼」が行われていたという記録があり、その成績で禄高も決まったとか。

この記念すべき地で、全国の弓の大会を開催することができました。そして、会員の皆さんの協力で成功裡に終わることができました。この経験は、かならず、今後の連盟の発展につながると思います。

ありがとうございました。

奈良県弓道連盟 会長 吉本清信

■平成22年度

スポーツ指導員講習会を終えて

指導部 西浦 範光

12月12日の「第6回スポーツ指導員講習会」を最後に、今年度のスポーツ指導員の講習会を終えることができました。これもひとえに連盟の皆様方のご協力があったからこそできたものでした。ご協力ありがとうございました。

今年度初めて行われた行事なので、日程から内容・運営にいたるまで全てゼロからのスタートでした。まさに暗中模索の状態から始まり、多くの方々からご指導やアドバイスを受け、また、受講生からの要望を採り入れながら6日間の講習会を終えました。

講師として指導部以外に、吉本会長・須田副会長・西中理事長・阪中総務部長に来ていただき、充実した中身の濃い講習会になりました。また、会場の確保に奈良市立弓道場を大半お借りするにあたり新司副会長（奈良市会長）には随分助けられました。本当にありがとうございました。そして、受講生の真摯な受講態度にも助けられました。16名（内1名は体調を崩し欠席）の皆さんは一生懸命に取り組んでいただき、基本的な練習はもとより、介添えの練習もじっくりと取り組むことができました。普段の講習ではなかなかできないような内容も実施でき、有意義な講習会になったように思います。➤

▶また、須田先生の講義は普段なかなか聞くことのできない内容ばかりで、また聞きたいと思う講義でした。連盟の行事の中で須田先生の講演会があってもいいと思えるくらいです。

我々指導部としてはなかなかうまく運営ができなくてご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力のお陰で無事終了することができましたことをご報告申し上げます。来年度以降この講習会を実施するかどうかは、連盟の理事会や各支部のご意見等を聞きながら検討していきたいと思っておりますので、ご意見を聞かせていただければ有り難く思います。

◆ 第28回 奈良女子弓道大会

女子部 柏木 かおり

11月23日（祝） 奈良市弓道場

参加者： 大学生・一般 89名

高校7校 21名 計110名

いいお天気でしたが、北風の吹く寒い中で大会となりました。団体戦では、的中五割をこえるチームは2チームという結果でした。5チーム（11中）で3位決定戦を行いました。射詰1回目で2中した敵傍高校が3位となりました。

個人戦では、二段以下の部で8名が予選通過。射詰2回目で2名となり、4回目で1位と2位が決定いたしました。三段以上の部では、10名が予選通過。射詰め1回目で1位が決定。9名で遠近法を行いました。

閉会式での竹村副会長のお話の中で「八節をていねいに丁寧に。それが美しい弓・的の中にもつながります。弓倒し、物見返し、足をとじる・・・きちんと出来ていれば、それまでの事も出来ているはずですよ。精進してください。」とありました。心において、実りある練習につながっていったらと思います。

参加の皆様、ご協力ありがとうございました。

また大会運営にあたり、お世話いただいた役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

【団体戦】

- ① 橿原C（小野温美・林万智子・林 秀子）
- ② 奈良大学A（相川 悠・木原由貴・萩村美海）
- ③ 敵傍高校（松田梨紗・渡辺夏帆・中村有希）

【個人戦】

☆二段以下の部

- ① 永井 杏奈（奈良高校） ② 木原 由貴（奈良大）
- ③ 松本 麻希（奈良医大）

☆三段以上の部

- ① 河野 久栄（奈良） ② 林 秀子（橿原）
- ③ 西尾奈津子（奈良）

## ■天理大学弓道部男子 二部昇格

監督 久保 善宣

今年度関西学生弓道連盟リーグ戦において天理大学は30年ぶりに二部に復帰しました。

戦績は次の通りです。

第1戦 対奈良大	1 2 2 : 8 5
第2戦 対滋賀大	1 2 1 : 1 0 0
第3戦 対神戸外大	1 1 0 : 1 0 2
第4戦 対龍谷大	1 1 7 : 1 1 7
同中競射 一手	10 : 10 一本 5 : 4で勝利
入れ替え戦 対仏教大	126 : 120 で昇格

ここ数年男女ともに部員が少なく後1勝のところまで4年間涙を飲んできましたが、今年も男子10名女子5名の苦しい戦いになりました。

そこで、今年は明治神宮の全国選抜大会に選ばれていたため、春休みに天理市内合宿を行い、遠的で、先ず飛を心がけとにかく強い矢を飛ばし、去年に続き住吉大社遠の団体優勝を目指して練習に励みました。この結果住吉での団体連続優勝はなりませんでしたが、全員遠的で半矢を割ることはなくなり殆どが7割の的中を持ち、4名は8割以上の力をつけました。

選抜大会は県弓道連盟会長の推薦が必要なので五月に会長の吉本先生に練習を見て頂き指導していただきました。ここでは特に体配について時間の取り過ぎにならないように丁寧な中にもスムーズに行射できるよう練習することと、腰を切ってまわりながら射位につく時の左膝をもっと被せること、あて気に走って早気にならないことを指導いただきました。

この結果、明治神宮大会、関西選手権、全日本と5人立ちでは、常にトップレベルの的中を出せるようになりました。夏季合宿は例年通り、熊野古道の監督の教会で、自炊の合宿で炎天下遠の3日間行い、先ず精神力と飛、貫の力をつけることに勤めました。

次に田辺市弓道場では4日間、走り込みをして、前三田学園監督の町田先輩から胴造りから基本練習を徹底的に指導を受けました。西浦コーチからは常に、中りに捉われず行射すること、基本動作をしっかりとやること、会を長く持つこと、前が抜いたら絶対止めること等厳しい指導を受けました。

4戦目龍谷大学戦は接戦の末勝ちましたが、その後全員精神的に疲れたのか中りも落ち、射も中りに走りだしました。そこで、2日間合宿を行い町田、川合、西浦のOBが徹底的に基本練習を指導し1週間後には126中という今季リーグ戦最高の中を出して昇格を果たしました。➤

練習と変わらない中りを出すには練習から立として4人がまとまっていつも気合の入った体配で行射すること、それには常に厳しく気合の入った指導者が付き添うことが大切であるということ今回痛感しました。そういう意味で、今回の昇格はレベルの高いOBの指導と、また吉本会長はじめ奈弓連の方々の親切なご指導の賜物と感謝しています。

## ◆第29回全国高等学校弓道選抜大会 兼

### 第18回近畿高等学校弓道選抜大会県予選会

11月14日(日)の1次予選を勝ち抜いた男子個人37名及び女子個人32名と団体男女各6校が、21日(日)に2次予選を行い、男女個人1~6位と団体1・2位校(男子は3位校も)は京都市で行われる近畿選抜大会に、男女個人1・2位と団体1位校(前年度優勝校の檀原高校も)は鹿児島市で行われる、全国選抜大会への出場権を得ました

#### 【個人】

##### ▽男子

- ①下村 直也(王寺工業) ②林田 渉平(高田商業)  
③栗村 遼(高田商業) ④前川 知輝(高田商業)  
⑤平山 浩久(法隆寺国際) ⑥中西 伸高(檀原)

##### ▽女子

- ①渡辺 夏帆(畝傍) ②野田 理恵(郡山)  
③中川 文香(奈良) ④横井 千聖(五條)  
⑤辻 沙織(畝傍) ⑥吉崎 麻帆(奈良北)

#### 【団体戦】(決勝リーグ戦)

##### ▽男子

- ①高田商業高校 前川・田中・林田・栗村  
②檀原高校 宗岡・吉村・山本・中西  
③五條高校 尾崎・福井・山本・小松  
④平城高校 横井・和田・是枝・扇田  
⑤王寺工業高校 向本・下村・中井・西出  
⑥西の京高校 堤野・出口・岡・福井

##### ▽女子

- ①平城高校 津田・勝山・鈴木・山上  
②法隆寺国際高校 柴田・岡・柿原・北浦  
③五條高校 中町・西久保・東本・辻本  
④榛生昇陽高校 森・松本・大塚・高瀬  
⑤畝傍高校 渡辺・辻・中村・松田  
⑥奈良北高校 百歩・松村・岡田・吉崎

#### 【技能優秀賞】

- 男子 山本 雅也(檀原)  
女子 柴田 侑華(法隆寺国際)

スポーツ指導員養成講習会

須田 三郎先生の講話 その2 (完)

(8月1日の講習会でのお話を数回に分けてお届けしています。  
今回でひとまず完結です)

「指導者について」

どのような世界においても、最初の一步を導いてくれる人との出会いほど大切なものはありません。どんな指導者に巡り合えるかで、その後の成否が決まるといっても良く、それだけ指導者の責任は重く、私たちは「指導」ということを軽々しく考えてはなりません。

どのような指導者であるべきか…。

まずは指導する相手の理解から始めます。教えを受けようとするものがどのような思いを持って入部・入会してきたのか。競技会で活躍することを目的とした人なのか、伝承文化としての弓道の修練を通じて自己鍛錬を試みようとする人なのか、軽スポーツによる体力増強が目的なのか、学生であれば過去の運動歴等々、しっかり承知しておきたいものです。

富山県の会長だった故上田喬弘先生は著書の中で次のように言っておられます。

「教え方では、相手によって演ずる役柄を十分心得て対応しなくてはならない。母親が子供に接するごとく、乳飲児のときは横に臥し、幼児のときは坐し、小児のときはしゃがむように、相手の高さに応じて接していくことが必須条件であろう。しかし、その時々においても大人への憧れを持たせるため、大人の大きさ、強さを見せる必要がある」。

また、指導者は基本的にその種目に対する情熱と勝負に対する執着心が大切なのは言うまでもありませんが、長い歴史を背負って発展してきた「伝統文化としての弓道」の場合は、今日までの発展の道筋も一通り承知しておくことが大切だと思います。全日本選手権ではなぜ竹弓・竹矢の使用が望ましいのか、もっと基本的なところで、勝利したときになぜガッツポーズをとることは好ましくないのか…、それらの問いには歴史が答えてくれるはずですが。

そして、教えるべき対象がどのようなタイプであれ、弓道という種目の目指すところはどこかを、会話を通じて、或いは映像で、時には実際の場で示してやるのが大切です。何気なく始めた弓道なのに、修練を重ねるにつれて、単に的中を楽しむだけでなく、更に奥を窺めようとする態度に変わっていくというのが一般的な愛弓家の姿です。指導者は学ぶ側のその時々の変化に応じて与える課題のレベルアップが図れるように、常々心準備をしておくことが大事かと思えます。➤

▼指導者にもいろいろなタイプがあります。身近な例でジャイアンツの原監督のように選手の非難をまったくしない人もあれば、楽天の野村元監督のようにボヤキを通じて選手にやる気を起こさせようとする人もいます。

弓道の指導者によくみられるスタイルとして、自分の殻に閉じこもって他を排除する、自分以外の人の言うことを聞くなという態度があります。

自らも常に研鑽し、正しいと思うことを伝える一方で、他の優れた弓人の考えも参考にさせる…、学ぶ者は仮に他の弓人の指導に感銘を受けても、愛情を持って育ててくれた元来の指導者を捨てることはないはずで、古くから次のような教歌が伝えられています。

数々の道をききおく師匠こそ 弓を育つる父母となれ(吉田・大和)  
人ごとに生まれつきぬる射形をば 皆いちやうと思ふ拙さ(吉田)

故森川勝先生のご指導の中で私の一番印象に残り、大切にしている点は、「指導にあたっては基本だけを伝えなさい。方便を教えてはいけません」ということで、先生ご自身、この原則からはみ出すことはありませんでした。(方便=便宜的な手段・手立て)

方便を教えては、ややもすると次の教歌のようになりかねません。

習ひぬる弓をば捨てて皆人の 師匠の咎と後は言ふなり(日置・竹林)

また、実際の指導にあたっては次のような心掛けも大切です。

稽古には直す所はおほくとも ただ一色といひて射させよ(日置・竹林)

指導者みずから完成された射技を実演できることは理想的で、誰もがそうありたいと思うものですが、実はなかなか難しいことです。現実に学校の部活動などでそのようなことは望むべくもありません。

極端に言えば、学ぶ人たちへの思いやりと簡単な弓書が一冊あれば、弓道の基本を指導することは可能であって、実際に多くの弓人が若いうちはそのようにして育てたのではないかと思います。

要は教えるものと教えられるものとの心の通い合いであって、指導者の資格として問われるものは一言で言えば「思いやり」、結局は人間を磨くことに尽きるという気がしています。(完)

編集子： 担当して満3年が経過したのに毎回編集作業には四苦八苦しています。それでも多くの方から投稿をいただくと、嬉しくてなんとかせねばと頑張っています。インターネットのホームページと共存しつつ、一味違う存在感を目指していますので、どうぞご意見、ご希望などお聞かせください。

今年一年ご協力ありがとうございました。